

愛あいニュース 6月号

在宅リハビリ強化型 訪問看護リハビリステーション愛あい



＜脊髄小脳変性症（SCD）のリハビリについて＞

1. 難病の利用者様が増えています！

現在、当事業所のリハビリ対象者の3割近くが、厚生労働大臣が定める指定難病です。多い疾患名は、「パーキンソン病関連疾患」、「脊髄小脳変性症」、「筋萎縮性側索硬化症」、その他となっています。今回は、脊髄小脳変性症（SCD）のリハビリについてご紹介します。

*ちなみに…指定難病の場合、介護保険の方でも訪問看護（リハビリ含む）ご利用分は、医療保険が対象となります。さらに「特定医療受給者証」をお持ちの方は、医療費のご負担が最小額に抑えられます！

2. 脊髄小脳変性症（SCD）とは？

小脳自体もしくは、その伝導路である脳幹や脊髄に病変が生じて運動失調を主症状とする神経変性疾患群の総称です。主に出現する症状は、

- ①起立時や歩行時にふらつく、バランスを崩しやすい
- ②手足や体幹がうまくコントロールできない
- ③話す時に口や舌がもつれる、呂律が回りにくい
- ④飲み込みにくい、むせやすい

その他、様々な症状を伴いゆっくと進行します。



3. 脊髄小脳変性症（SCD）のリハビリとは？

機能低下の予防、社会参加の継続、進行とともに病期に合わせたリハビリ指導を行い、ADL や在宅生活の維持を目的としています。特に転倒・転落は多いため、予防することを重要視しています。

主な指導内容は、①ADL 訓練 ②運動・歩行訓練 ③自主トレの習得 ④福祉用具・環境調整の指導 ⑤ご家族への指導 ⑥心理的支援 ⑦会話・呼吸・嚥下の指導や援助、等です。先を見据えて、多（他）職種と連携しながら、転倒・転落の防止、安心・安全な在宅生活を送ることを目指しています。

4. ケアマネジャー様へ

- ◇ 難病の方には、出来るだけ早めに訪問看護（リハビリ）の導入をお勧めします！
- ◇ 導入時期は、診断時、症状進行時（転倒が増えた、むせやすい）等、利用者様によって様々ですが、早めに訪問看護（リハビリ）を入れると、運動機能や自宅内の生活環境への対応によって、ADL 維持の期間が延びやすくなります。
- ◇ 当初はリハビリを主に行っていますが、症状進行とともに医療依存度が高くなるため、看護師の対応や訪問回数が増えていきます。「愛あい」では、主治医、看護師とリハビリ職が連携を取りながら展開しているため、ケアマネジャー様にとっても医療的な相談がしやすいと思います。早期からの関係づくりが重要です。
- ◇ 利用者様の長期に渡る在宅生活のサポート体制をともに構築していきましょう！！



【発行元】

24hs 緊急対応可！【事業所番号：0262790132】

在宅リハビリ強化型 訪問看護リハビリステーション愛あい

TEL：0178-51-9553 FAX：0178-51-9554

営業時間：平日 8:30～17:30（休日：土日）〒039-1526 五戸町字下長下夕 91-8

正看護師 : 4名
准看護師 : 1名
作業療法士 : 2名
理学療法士 : 1名
(2020年6月現在)